
本当の姿

ゆきな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本当の姿

【コード】

N8065X

【作者名】

ゆきな

【あらすじ】

男爵の家に生まれたマイ・ギルバート。精神年齢は40歳のか弱い15歳の乙女

男爵の家に家に生まれたマイ・ギルバート
今年15歳にして精神年齢はなんと40歳

何故こんな奇妙な事になったのか

それは今から16年前のある事件からこんな精神年齢になってしま
ったのである

16年前確かに私は25歳の女でそれなりに恋愛もしたし好きな仕
事にもつけた

凄く凄く幸せの日々だった

甘い蜜を吸い過ぎたに違いない

じゃなければあんな事件に巻き込まれない

幸福の次には対価のような不幸が待ってる

逆もありけりなはず…だったのに

火の粉のように私に降りかかりそれは広がり私の身を滅ぼした

真っ暗なここは何処？

私はある事件に巻き込まれた月見舞（つきみ、まい）

25歳にしてちよいと物騒なコンビニ強盗に遭遇しちやた人
宝くじ程度の確率で遭遇してしまった私はどうやら人質として使わ
れ逃亡する時まで一緒にいたんだが邪魔になり胸を包丁でグツサリ
やられ死んだ

はずだった

なのに真っ暗な個々は何処だろう
前まで毎日のように見えていた迷う魂が見えない

なんだか真っ暗な此処に恐怖を感じてきた
私どうなっているんだ

何時間か何日か

私は猛烈な引力に負けた
寝てたので呆気にとられ放心状態になっていると周りが騒ぎだし真
っ白な服を着た人が私を叩きだした

なにこの巨人ども…そう口に出そうとして声が出なかった
よくよく見ると手が小さい
私赤ちゃんなの…なら泣けてか！

………

仕方なく泣くと周りは安堵のため息を吐く

「~~~~ニーナ~~~~フェッグティアディス」

なにやら分からない言葉（聞き取れない！）を話す人が私を女の人
のお腹に置く

「ニーナ~~~~アライ~~~~フェッグティア」

なに状況が分からない
てか言葉が分からない…

3 (前書き)

拙い分でごめんなさい

まったく言葉が分からない…
てか私何で赤ちゃんなんですか!?

そんな状況で困惑している私を白い服を着ている人が体をテキパキと拭いてついでにみたいな流れで、私の手を取り暖かな光を出して私を誰かに押し付けた

……おい待てよ!!今のは何だったんだ!
何がどうなってるのさ

程なくして私と私を産んだらしい人は別室に案内された

部屋に入ると同じベッドで私と女の方は並んでいた

「ミイリーミイリー、ワツイト」

何言ってるかわからない
困った、いや焦りがくる…

「リリーリリー、〜アライ〜……フィアツウドウナ!」

ボンツ!と言う音と共に現れた人!

ドアが無い場所から来ました、ドアは反対ですよ

何だか現実感が無いような…

私はひよっとしたら、死んだのも夢で此は長い夢のお話なのかもしれない！

そうか夢か！なら夢を楽しまなくては

よしよし私は大丈夫よ！夢だから暫くしたらまた何時もの部屋にもどる

「ファイアツウドウナ、ファイアツウドウナ！」

さつき目の前に現れた人が叫びだした

私の夢ファンキーなのね、私もまだまだ若いわ〜捨てたもんじゃないな

そんな悠長に考えていたらいきなり私を抱き締めた

私まだ首が座ってないし頭がやらかいの、グロッキーになるよマジで！

私をそつと奪い私の命を救った人がいた

「~~~~~パパ~~~~~アライ~~~~~」

私に語りかけるように話し問題野郎（危険人になりました）に指を

さしました

ポロポロと泣き鼻水をたらし終いに嗚咽をはいてる
汚い…なんでもいきなり泣いてんだ

そんな光景を眺めながら

時間が来たようで

名残惜しいように私にキスをして私を生んだ人にはチヨイと濃厚な
キッスをしていた
手が早い…

そして手をふりながらまた泣いて目の前で消えた

!!!!!!!!!!!!!!

今の人は生きてたよね生きてたよね！

「アリイ〜〜スイ」またもや困惑している私に私を生んだらしい
人が語りかけ同じベッドで寝かしつけられた

正直言えば寝たかった、でも寝たら夢が覚めそうで
何となくこの夢の続きが見れないのは残念に感じ寝たふりをして起
きていた

私を生んだ人から寝息が聞こえるまで時間はかからなかった

疲れていたんだろっ

一つの生命を誕生させた軌跡とさせるまでの軌跡
この奇跡はかなり負担な筈だ

生命の命の誕生に感動しつつ、やけにリアルな感覚と出産してないのにやけに細かいなあなんて事を思った

ところで長い夢について考えよう

次も見れるかもしれないし強く念じたら

え〜と、確か私が死んだ事から始まった

それで目が覚めたら真っ暗な地獄（仮）で暫くは地獄に居た

その後に私は綺麗な女の人の大地のワレ〇から出たはずだ

そしたらあの人はやっぱり私の母親になるわけか、それじゃあ問題

野郎は父親

てか何で父親が目の前で消えたの？魔法なの！！！！

たしか看護婦らしい人に何か当てられたな

やっぱり魔法なのね！

私異世界トリップ大好きなのよ！

最早中二病の域ねこれ
にしても私を生んだ人

綺麗だったなあ

ついでに問題野郎も顔はよかった

私の夢万歳！

早く目がさめて小説のネタにしたい

色々考えていたら眠ってしまった

でも明日は確か土曜日だから仕事休みだし寝ようかなあー
もう寝ちゃおう休み何だし

「~~~~ア~~~~」

慈しむような声が聞こえハッと目を開ける
目の前には綺麗な女の人と美形な男の人
そして私を見つめる目は優しく、暖かい

いつも欲しかった目

いつも欲しかった慈しむ声

私の存在を認める声

でも望んだ人の顔じゃなくて息が詰まった

違うこの人達じゃない!!!!!!

「う……うああん!!!!!!」

気付いたら烈火のごとく泣いていた
私の欲しかったのは貴方達じゃない
お母さん、お父さん、私は此処だよ
私にまたお母さんとお父さんの声を聞かせてよ

そう思うと涙は止まらなかった

困っている目の前の人に私は無情にも悔しさしか感じなかった

お母さん、お父さん

会いたいよ

暫くして私は落ち着いたと同時に夢が現象だという事に気付いた

「フィリマーズティナ」

「リスウィナ」

言葉が分からない混乱と正気をなくした用な現実を今私は同時に感じている

なのに頭のある部分が冷静になれと私に言う…

「……………」

今何か聞こえた？

……………「よつと」

声のする方を見ると（目だけを動かしただけ…）小さい小人がいた
プラチナ色の髪はボブに切りそろえていて、服は騎士みたいなピシ
ツと決まっている

可愛い…

私は今までのぐっちゃぐっちゃの頭の思考なんか吹き飛ばすくらいに
テンションがあがりそうになった

私は可愛いと小さい物には弱いのだ

ってテンションをあげている場合ではない

何故小さい生き物が今目の前にいるのかが問題だ

「あら今回の双白の魂の持ち主は随分可愛いね！」

おいおい小さいのが近づいてきた、てか双白ってなんだろう？てか小さい生き物は何だろう？幻覚かしら…

「やあね幻覚なわけじゃない」

「！！っ今口に出して言っただけじゃないのに」

「ふふ、これは企業秘密の術です」

「テンションが可笑しいよコレ。ってかあ、れ？日本だ！！」

「そうだよ。君が一番理解出来る言葉を吸い取ってきたらな」

「今にもスキップしそうな言い方だな、てか貴方は幽霊？」

「あんな低俗な物と一緒にしないで、僕は君の世界という妖精だよ
私の世界という妖精？」

「君はまだ此方の世界の言葉が分からないからね」

「どうゆうこと？」

「はてね、一先ずちよとごめんね」

「そういうと妖精？は私の頭に触れた」

「ジリジリという音がしてちよと熱い」

「……………双白の魂じゃない…ならまさか……………断りの魂…違うそれだけじゃない銀白の魂……………まさか！！！」

「妖精は独りでなにやら分からない事をいいたした」

「ちよといい？妖精さん」

「……………なに？」

「なんか双白とかよく分からないですが、それは置いておいて個々つてひよつとして異世界ですよ」

「そうよ」

「ならやつぱり私は死んだんですかね？」

「コクリと妖精は頷いた」

「やつぱりか、すこしの期待を胸に聞いた私が馬鹿だった」

「ねえ君さ死ぬ前に何かした？」

「な、なんですか！万引きは空腹の余りにやってしまいましたか…」

「違うよ。その万引きはどうかと思うけど、君聖職者だったり神様にあつたりした？」

神様？聖職者？んなわけないよ…私神様も神に祈るのも、神様に会つたりもしてないし信じない。むしろ怨んでるよ神様なんか

「…そうか、事情は知らないけど君は神様からの加護が凄いついてるよ。それ以上に君はもつと凄いけど」

神様の加護？ならなんでもあの時…
暫く妖精さんは黙っていた

「……………僕がなんか言える立場じゃないけどね、僕も神様は嫌いだったよ。不公平に幸せを分け与えたり、面白半分で人達を争わせる引き金を与えたり、楽しければ、自分がやりたいなら人だつて殺す。神は楽しければ何でもするからね」

神って最低だよ…

「そつだよ、だから君はなんで神の加護を受けてるんだ？」

どうゆうこと？

「あのね神から加護を受けるには君は神を嫌すぎるの」
うん

「ちよつと説明するね

神はね狂つていく、勿論狂わない神もいるよ！僕みたいに妖精に神が頼み込んで世界を見張つて貰つて摂理外を助ける神もいるよ。全部は無理だけど凄くいい神なんだよここの神。」
なら私の気持ち分からないじゃない

「解るよ

前の神はね傲慢で世界から人を無くす為に力を使っていたよ。でもそれを救ったのが今の神なんだよ」
ふむ、なんとなく此処の神は優しいんだ

「そうさ！で君の神はおかしいんだ、君が神を嫌っているのに加護を受けるのは可笑しい
それに君は純空の魂、神が君を殺した形跡もある。それが一番分らないんだけどね

君は前の世界のバランス、いや今はこの世界バランス
そして君は今純空の魂
君は世界で一つ断りの魂を持つ」

6 (前書き)

お気に入り登録して下さった方々には本当に申し訳ないです。ヘン
テコな文章力でごめんなさい

純空の魂？断りの魂？なにそれ

「うんと、純空の魂はね世界の中心になりバランスになるんだ
簡単に言えば光と闇を持つんだ、まあ体質として捉えていいよ
魔法も全部の属性を使える」
な、なに！私も魔法使えるの

「そうだよ

まあ追々教えてあげるよ

さて世界の中心になるのは君が力を持ちすぎるからでね、君はね世
界をぶつ壊わせるけど、救う事もできる

んで神が力を無くしたら君が神代行をして次の神を決める

まああれだ君は審判を下す」

あれでもここの世界の神は

「君が決めてないよ

君が勤めるのはね君の生まれた世界だけ、君の他にも純空の魂を持
つ人はいるけど世界に一人必ずいる訳じゃない」

どうゆこと

「まあ神様は不死ではないんだよ

人間みたいに死ぬ

でもね魂は生まれ変わる輪廻転生ってやつね

まあ神様は長生きだから中々死なないけどね

まあだから純空の魂はそうそういないんだ

ざっくり言えば君は最高位の神様だったんだよ

でね純空の魂はその世界の最高位の神が困った時とか教えを請うんだ魂の記憶を呼び起こしてね話をするだから大切だし、神は辛い仕事だから次の一生を幸せにするっていう暗黙のルールがあるだそれに力があるし神は君が居ると世界のバランスを保つ必要もないから負担が減るんだよ」

……

「まあ混乱するのは仕方ないよ
神の時の記憶は蘇らないらしいよ普段

さて次は加護何だけどこの加護は前の世界、つまり君を殺した神がつけた加護なんだ、一つは君を純空の魂だと気付かれないようにしてあるしね

まあ僕は代々純空の魂の使者だから分かったんだよ
僕の代で二回しか純空の魂は来なかつたけどね

まあ直感でやつできづいて後は確信に繋げる為に特殊な見方でみたけど」

私が神だった？

「混乱するのは仕方ないけど
後でじっくり考えなよ今は状況を受けとめて
それで話を戻して

断りの魂だけど、これ厄介なんだよ！」
えっなにが

「生まれた両親の顔を受け継がないんだよ！
参ったよ全く似ないんだよ、君は黒髪に黒い瞳それに顔がこの世界

と少し違う

怪しまれるんだよね」

はい…で、っとうしろと

「それだけでも普段から魔法で姿変えてなきゃね

しかもこの夫婦凄腕の人達だからね

どうでしょう」

正直もう頭がパニック状態ですが

「まあねこの人達はひよとしたら気づいてるかもよ、血は薄いけど

純空の魂の子孫と天上者の子孫だからね」厄介な奴らから生まれた

よね

僕たちの事は本来知ってはならぬ制約なのになあ

神様に相談か〜ん〜厄介だ…」

ごめんなさい

「あっ気にしないでいいよ

僕は純空の魂の使者だから寧ろ光栄だよ」ありがとう

「さてと、神に報告に行つて来ますね」

今から？

「そうだよ早い内にやらなきゃね

天界からの意見ももらわなきゃならないし

僕もちよとやらなきゃいけないから暫くはこれないよ

でも

絶対に……………ダメだよ」

えっ？何って言ったの？

「君はね闇が強いから

闇に喰われちゃダメだよ」

闇に喰われる？

「ファイター## * &

なんて言ってるんだ？

.....

*
」

あれ、意識が.....

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8065x/>

本当の姿

2011年11月20日17時20分発行